

薬局通信 http://www.geocities.jp/ph_harmony/ はあもにい

No.112
2005年
1月号

(有)静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230

昨年は、大型台風・地震そしてイラク戦争など天災・人災が次々と私たちの襲いかかる大変な年でした。被災者の方々が、1日も早くもとの生活に戻られるようお祈りすると共に、多くの皆さんから支援の募金をいただきました事を、この場でお礼申し上げます。皆さんからいただいた募金は、新潟に支援に行った薬剤師が直接お届けした他、薬剤師会を通じて日赤に募金させていただきました。本当にありがとうございました。また、何より人災であるテロ・他国を侵略する戦争は、平和を望む多くの国民の力で防いでいきたいと思えます。

さて、新潟の地震については、静岡に住む私たちにとって決して人ごとではなく深刻に我が事として身の回りを点検なさった方も多いのではないのでしょうか？地震など大きな災害があったとき、初期対応の24時間は外からの支援は殆ど得られず何と言っても地域での助け合いが重要と言われています。私たち民医連の保険薬局は日頃から地域の皆さんとの交流を深め、いざというときに地域の助け合いの中心になれる薬局をめざします。



そのためにも、本年は特に共同組織の方々の班会、薬局主催の健康講座を初めとして「くすり」だけでなく健康食品の相談、また井戸水調査など地域の保健衛生活動にも目を向け、地域にどんどん足を踏み出していきたいと思えます。

混合診療解禁の問題、介護保険法の改悪など、ますます弱い者いじめの政治が行われようとしています。皆さんとの強いきずなで、明るく元気に乗り切っていけるよう努める所存です。本年もよろしくお願ひします。

47,707 円の募金が集まりました。

ありがとうございました！！

この間薬局の窓口で、新潟中越地震被災者支援募金をお願いしたところ、47,707円が集まりました。このお金は早速新潟へ送らせていただきます。御協力、本当にありがとうございました。

(有)静岡健康企画 職員一同

新潟中越地震支援ボランティアに参加して

ことぶき薬局 薬剤師 林昭文・事務 山脇克哉

11月12日(金)から14日(日)まで新潟中越地震のボランティアに参加してきました。私たち健康企画の薬局が加盟する静岡民医連から、三島共立病院・薬局職員、健康友の会会員さん、浜松医大の学生など6名が参加しました。

ボランティアは新潟民医連かんだ診療所を中心に、東京・神奈川・福島・大阪・長野などの各県民医連から参加して行われました。片付け支援では、長岡市のはずれにある栖吉地区にある医療生協組合員さん宅を訪問。道路のあちこちが隆起・陥没し、応急処置はされているものの、進入禁止となっている箇所が多数ありました。組合員さん宅は室内の壁が剥がれ落ち、外壁には大きくひびが入るなどの被害があり、建物診断では「要注意」の判定を受けていました。「30年かかってやっと建てた家が一瞬で壊れてしまった。」というつぶやきに心が痛みました。午後は、被災状況や健康状態の聞き取りを行いました。基礎が崩れ大きく傾いている家、ヨウヘキが崩れ崖下に崩れ落ちる危険のある家など、その被害は甚大でした。どのお宅も、余震が続く中で本格的な片付けはできないという状況でした。訪問の中で印象に残ったのは、「避難所から仕事に行くのは難しい。自力でアパートを借りたが、今のところ1円の補助金もない」「仮設住宅を申し込んだが抽選のためどうなるか分からない」いまだにご自宅に戻ることができず避難所で暮らされている方、命綱である道路の消雪パイプも破壊され冬を越すことができるかどうか分からないという不安、など地震から時間がたった今でも問題は深刻です。

今回、阪神淡路大震災や福井豪雨災害に続いて静岡民医連からボランティアを派遣しましたが、新潟支援では一番多いときで250名の職員が全国の民医連からかけつけました。ボランティアに参加してあらためて全国に広がるネットワークの力を実感しました。災害時でも地域のみなさんの生活と健康を守ることが出来るような薬局・病院・診療所を作るために準備をしていきたいと思います。

新潟県薬剤師会・中越地震薬剤師ボランティア活動に参加してきました

11月13日(土) 三島市薬剤師会の代表として支援活動に行ってきました。現地での仕事内容は、全国から寄せられた医薬品等の仕分け、避難所での管理、お薬相談(健康相談)、医薬品や日用品の供給等でした。私は東小千谷小学校を担当しましたが、その時の印象は震災後3週間目だったこともあり、被災者の方々は落ち着きを取り戻されているようでした。実際、取り扱った薬は市販されている風邪薬や胃腸薬、湿布等で、応急処置的な対応でした。普段、病院の薬を服用されている方に対しては、避難所に病院(国立や日赤)の出張所もあり、そちらで対応していました。この教訓から、普段薬を服用されている患者様は、病院受診の日に1週間分くらい薬が残っているほうがいいように思われます。

薬剤師 林 昭文